

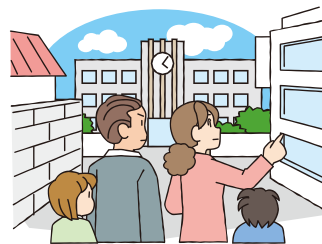
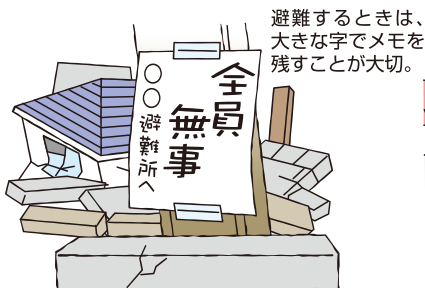
7 月に1度は家庭で防災会議を

家族の防災意識を高めるため家庭で防災会議を開きましょう。定期的な話し合いの積み重ねで、いざというときには適切な行動がとれるようになります。また、家族単位だけでなく、ご近所との合同会議がもてれば一層心強いですね。



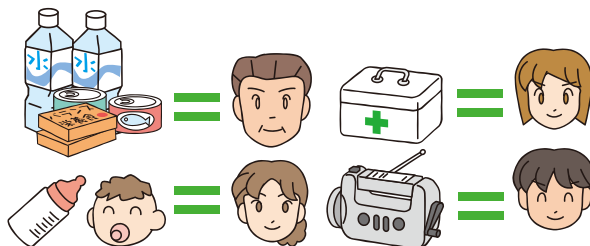
家族への連絡手段や避難先をチェック! → p26~33及び裏表紙参照

- 家族が離ればなれになったときの連絡方法について確認しておきましょう。
- 最寄りの避難場所を確認し、そこまでの経路に危険な箇所がないか、実際に現地を歩いて確かめましょう。



一人ひとりの役割分担をチェック!

- 火の元担当、非常持出担当などを決めておきましょう。非常時だけの担当ではなく、日常生活の中で、就寝前の火の元確認、非常備蓄品の確認を習慣づけましょう。
- お年寄りや乳幼児がいる場合には、介助・保護担当者を決めておきましょう。ご近所の協力も得られるとさらに安心です。



わが家の安全チェック! → p8・9参照

- 家具の配置換えや転倒・落下防止対策を行って、家の中の安全なスペースを確保しましょう。
- 家のまわりをぐるっとまわってみましょう。屋根、外壁、塀、プロパンガスボンベなどは大丈夫でしょうか?
- 家(建物)の耐震性について、調べてみましょう。



非常持出品などのチェック! → p25参照

- 家族構成を考慮し、わが家にとって必要となる備蓄物資の種類・数量を確認しましょう。
- 備蓄した物資の保存状態や賞味期限を定期的に点検し、必要に応じて交換しましょう。



消火器・救急箱のチェック!

- 消火器がどこにあるのか、知っていますか? 使い方についても、みんなで確認しておきましょう。
- 救急箱の中身を確認しましょう。必要なものは揃っていますか? また、包帯や三角巾などを、手にとって、使い方を練習してみましょう。

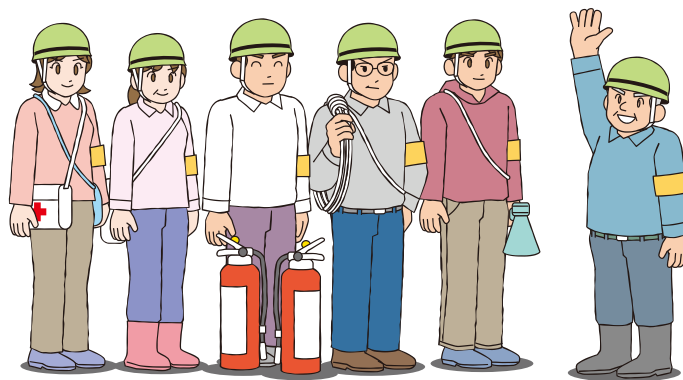


地域の防災活動に参加しよう → p20~23参照

災害時の防災活動は、自治体や消防機関などで全力を挙げて行います。しかし、道路の寸断や通信手段の混乱などで、防災活動が十分に行えないことも考えられます。そんなとき、何といっても頼りになるのは、ご近所の方々です。しかし、それぞれがバラバラに行動したのでは、せっかくの活動も十分な力を発揮することはできません。

災害に備えるためには、「自分たちの住む地域は、自分たちで守る」という自主防災の気持ちが大切です。ふだんから地域の防災上の課題についてみんなで話し合い、コミュニケーションをとる中で、ともに助け合うことのできる環境を整えておきましょう。

自主防災組織に参加



防災訓練に参加

